

東浦町立西部中学校



< 1月27日(火) >

授業名人である愛知淑徳大学講師の前田勝洋先生をお招きして、数学と道徳の授業を参観し、ご指導していただきました。

数学の授業は、図形の性質と証明を扱った単元で、各自で課題を選択し、ステップアップしながらプリントの問題を解いていくという方式でした。授業後の研究協議会では、理解が不十分な生徒に対する個別の支援方法やTTの役割分担のあり方などについて活発な議論が行われました。前田勝洋先生からは、「学習プリントの裏にあらかじめヒントとなるものを印刷しておく効果的であり、途中で時間を区切り生徒の進捗状況を確認することが大切であること」などをご指導していただきました。

道徳の授業では、木村信子さんの「いたい」という詩を題材として取り上げました。戦争の犠牲になる子どもたちが世界にはたくさんいることを映像や資料を使って示しながら、生徒一人一人に、この詩のどこの部分に何を感じたのかを発表させることを中心に授業を進めました。前田勝洋先生からは、「生徒から本音を出させるというよりは、生徒に本気になって考えさせることが大切」であり、そのための発問の工夫などについてご指導していただきました。